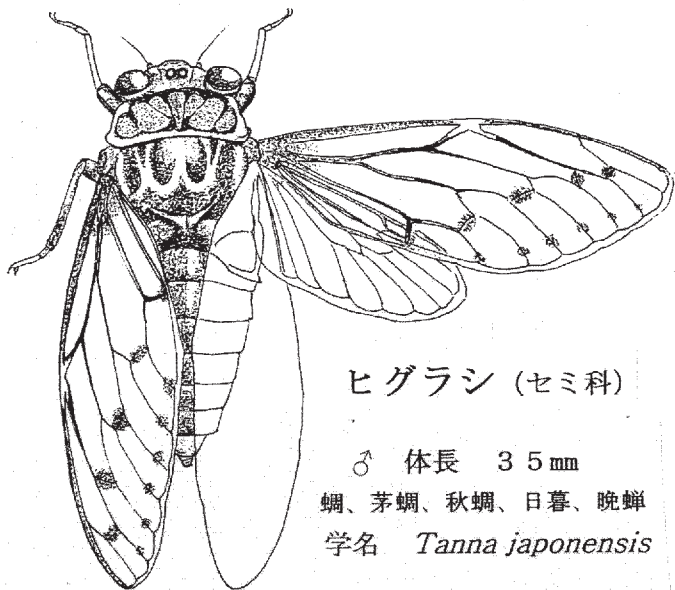


ほり ま たん けん 播 磨 探 検

2017.8.10
276号
元・文・赤・松・弘一



ヒグラシ (セミ科)

♂ 体長 35mm

蛸、茅蛸、秋蛸、日暮、晩蟬

学名 *Tanna japonensis*

英名 Evening Cicada

8月2日の午前10時過ぎ、校内を巡回していた時のことである。この日も非常に夏らしい手加減のない日差しが降り注いでいた。二見北小学校の校地の東端には5本のクヌギの樹が植えられている。樹液は出ていないが、この樹にはカナブンやカメムシなどの昆虫がよく見つかる。この日も2本目の樹の樹皮を探すと、すぐ手の届くところにセミがいた。淡い褐色でやや細身の胴と透明の翅はクマゼミでもアブラゼミでもない「これはツクツクボウシだ」と私は断定した。「まだ8月になったばかりなのに、も早お前が出て来たとは…

ああ夏はもう終わりか…」多くの教師はツクツクボウシを聞くと溜息をつく(と思う)。そっと手を伸ばすとあっさり手づかみで捕獲できてしまった。暑さでセミもボンヤリしていたのだろう。腹を見ると、鳴き声をだすための腹弁というひだがあるのでオスだと分かったが、捕獲時に一瞬だけ「グギギッ」と鳴いた後は沈黙していた。数枚写真を撮ってから逃がした。図鑑を調べPCで検索したが、どうもツクツクボウシの特徴に合致しない。この時期、他に翅が透明なセミと言えばヒグラシとミンミンゼミだが、あまり街中にはいない。(東京では街中でミンミンゼミがよく鳴いているが)特にヒグラシは、山地の杉木立や里山や鎮守の森など、自然豊かな所に見られる。ミンミンゼミは緑と白の模様と太短い胴ですぐ見分けられる。「こいつはヒグラシか?しかし、こんな街中にあるかな…」半信半疑であったが、そいつは間違いなくヒグラシの雄であった。

このヒグラシは校内で羽化したのか、それとも近くの森などから飛来したものなのだろうか。その後夕方などに注意しているが、あの美しい鳴き声は聴こえない。どこかへ飛び去ったのかもしれない。

ヒグラシの鳴き声は「カナカナ」と書き表すことが多いが、「ヒカヒカヒカヒカヒ…」という感じに聞こえる。日暮れ頃の他にも、夕立前の曇ってきた時などにも鳴く。夏の夕暮れにこの声を聞くと、涼しさと共にある種の寂寥を感じさせる。初めてヒグラシの声を聞いたのは、20歳のころ、高知県の窪川町の田舎道を路線バスに乗っている時だった。それ以前にもどこかで聞いていたのだろうが、この時の記憶が特に鮮明なのである。

ヒグラシの雄は雌に比べると腹部が長い。しかしその内部は抜け殻のように空洞になっている。これは発音筋の振動を響かせるための共鳴室らしい。雌には産卵という大事業があるため、産卵に関わる器官が腹の中に詰まっているが、雄はひたすらラブコールを雌に送ることだけが人生の目標であるから、それ以外の器官は持ち合わせていない。

早くも校庭には使命を終えたクマゼミの亡骸(なきがら)が転がっている。

植物の虫刺され? 「虫こぶ」 ~くぬぎはけたまふし~

クヌギハケタマフシ
(柵葉毛球附子)

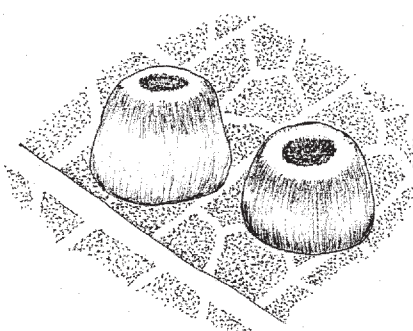
クヌギハケタマバチ
の虫こぶ

クヌギの葉
(裏面)

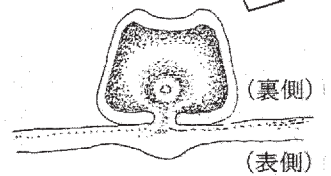


直径2~3mm

クヌギの葉裏にできるが
たまに表にもできる

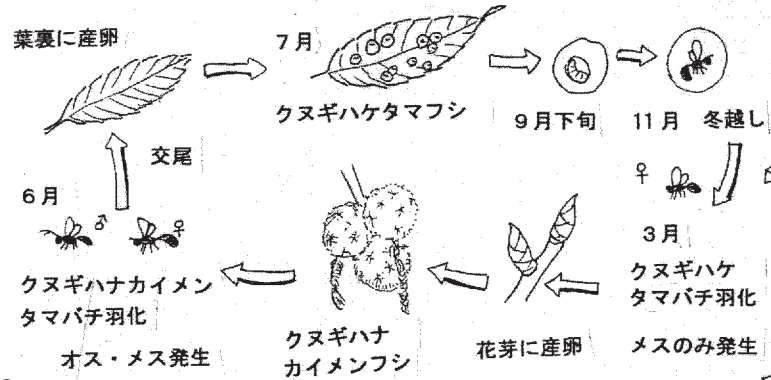


断面図
中にタマバチ
の卵がある



(裏側)
(表側)

クヌギハケタマバチのややこしい生き様



ヒグラシの見つかった北小のクヌギの樹には、その一部の葉の裏におびただしい数の丸い虫の卵のようなのがついている。初めて見るとぎょっとするが、これは「虫こぶ」というモノである。ある種のタマバチやタマバエ、アブラムシなどが、植物組織の中に産卵すると、その刺激によって植物の組織が異常増殖し、奇怪な形状の隆起やふくらみがつくられる。これが虫こぶであり、虫癭(ちゅうえい)とかゴール(Gall)ともいう。産み付けられた卵や孵化した幼虫が、ある種の刺激物質を出すことにより植物組織を変化させて、幼虫の成長に必要な食料と安全な住みかを植物につくり出させているのである。この組織の中で幼虫が栄養分を吸収して成長し、成虫となって外へ出てくる。植物にとっては与えるだけで何の利益も無いように思えるが…

今クヌギの葉の裏についている虫こぶは、9月には直径8mmにもなって地面に落ちる。その中で羽化したタマバチの成虫が冬を越して3月に外に出てくる。この時の成虫はすべて雌で、雄と交尾することなく無精卵をクヌギの花芽に産み付ける。そうすると花芽は大きな綿の球のようなクヌギハナカイメンフシという虫こぶになる。6月にはこの中で羽化した成虫が出てくるが、これには雄も雌もいて、名前もクヌギハナカイメンタマバチという。そして交尾して受精卵をクヌギの葉の裏に産み付けやがて虫こぶができる。それが今回見つかったクヌギハケタマフシである。この虫こぶの中で成長し3月に出てくるのは雌ばかりのクヌギハケタマバチである。つまりこの昆虫は1つの種で、クヌギハケタマバチとクヌギハナカイメンタマバチの世代を交互に繰り返すという変わった世代交代をするのである。

北小では他にも中庭のサクラの葉にサクラクロフシという、大きな芋虫そっくりに見える虫こぶがついている。これはサクラコブアブラムシがつくったものである。

北小では他にも中庭のサクラの葉にサクラクロフシという、大きな芋虫そっくりに見える虫こぶがついている。これはサクラコブアブラムシがつくったものである。